

# 4

## 東日本大震災における生活福祉資金貸付事業の状況

### (1) 緊急小口資金特例貸付事業

#### ① 発災後の対応概要

岩手県内では平成23年3月16日から緊急小口資金特例貸付の窓口を開設しました。

発災当初、沿岸被災地の社会福祉協議会は、被災者支援の全般に対応する必要があったことや、建物や職員も被災したため、通常の貸付相談対応が難しい状況だったことから、全国各地から派遣された社協職員や、岩手県内の被災地以外の市町村社協職員、県社協職員が被災地社協の窓口開設を支援しました。

東日本大震災による被災世帯の皆様へ

**生活福祉資金貸付制度のご案内**

**特例貸付**

**緊急小口資金**

一時的な生活費をお貸しします

**貸付内容**

- 対象世帯 東北地方太平洋沖地震で被災し、当面の生活費を必要とする世帯
- 貸付限度額 10万円以内（原則）
- 据置期間 1年以内
- 償還期間 2年以内
- 利率 無利子
- 実施主体 岩手県社会福祉協議会

**貸付金交付**

- 原則として借入申込者が指定する金融機関口座に送金
- 金融機関口座に送金することができない場合、現金で交付
- ※「生活福祉資金（緊急小口資金）特例貸付金引換証」と引き換えに貸付金交付

**貸付にいただくもの**

- 身分を証明できるもの（住民票、健康保険証又は運転免許証年金手帳等）
- 被災した事実を証明できる書類等
- 奥印「印鑑証明書が必要ですが」（ない場合は捺印で差し支えありません）

**貸付金種及び交付日種**

- 裏面をご覧ください。

●お問い合わせ先●  
宮古市社会福祉協議会  
〒027-0038 宮古市小山田2丁目9-20  
TEL080-1851-0098

**特例貸付緊急小口資金【受付窓口・受付日程】**

○常設受付

場所	日程	時間
宮古市総合福祉センター	毎日 (3月28日(月)～)	午前10時～午後3時
宮古市庁舎	毎日 (3月28日(月)～)	午前10時～午後3時

○避難所受付

場所	日程	時間
鮎が崎小学校	3月28日(月)	午前9時～午後12時
宮古第2中学校	3月28日(月)	午後1時～午後4時
津軽石小学校	3月29日(火)	午前10時～午後3時
赤前小学校	3月30日(水)	午前10時～午後3時
金沢老人福祉センター	3月31日(木)	午前10時～午後3時
河南中学校	4月1日(金)	午前10時～午後3時
千鶴地区	4月2日(土)	午前9時～午後12時
石浜地区	4月2日(土)	午後1時～午後4時
重茂出張所	4月3日(日)	午前10時～午後3時
安宿小学校	4月4日(月)	午前10時～午後3時
花輪出張所	4月5日(火)	午前10時～午後3時
グリーンピア田老	4月6日(水)	午前10時～午後3時
グリーンピア田老	4月7日(木)	午前10時～午後3時

窓口の開設や周知は、市町村ごとに準備を進め、市町村社協窓口、行政機関窓口での対応のほか、宮古市、大槌町では避難所を巡回しての貸付も実施し、防災無線や地元広報誌も活用し周知に務めました（周知チラシ参照）。

緊急小口資金特例貸付の概要は次のとおり。

#### 【緊急小口資金特例貸付の概要】

##### ●貸付対象世帯

次のいずれかに該当する世帯

- ・東日本大震災の津波被害が報告されている市町村に居住している世帯。
- ・東日本大震災発生後、避難所で生活している世帯。
- ・東日本大震災発生後、勤務先が休業となり、当面の生活費の確保が困難である世帯。

##### ●貸付限度額 10万円以内

（特に必要と認められる場合には20万円以内）

##### ●据置期間 貸付の日から1年以内

##### ●償還期間 据置期間経過後2年以内

##### ●貸付利率 無利子（延滞利子10.75%）

#### ② 被災者への貸付状況

被災地は、金融機関が再開しておらず、貸付金は、現金で迅速に交付しました。

当時、被災した市町村では電話やFAXが利用不可能で、毎日FAXが利用可能な近隣の市町村社協まで出向き県社協に申込書を送信し、貸付事務も勤務時間を2交代で対応しました。

また、交付する現金が多くなった時期は、警備会社に貸付金の輸送を依頼しました。

県内外から応援で被災地に派遣された社協職員が、避難所において昼夜無休で相談に応じるなど、献身的な対応をして頂いたことで、発災直後の金融機関が再開しない時期に当面の生活費を現金で確保できたことに対し、被災者から感謝の声が寄せられました。

平成24年3月31日までの緊急小口資金特例貸付実績は、3,002件、402,019,000円になりました。

## 【緊急小口資金特例貸付実績】

	平成 23 年								
	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月
貸付件数(件)	1,019	1,308	384	117	51	28	16	8	17
貸付額(円)	138,530,000	174,577,000	51,188,000	15,135,000	7,350,000	3,690,000	2,000,000	1,020,000	2,150,000
	平成 24 年				合計				
	12 月	1 月	2 月	3 月					
貸付件数(件)	14	14	8	18	3,002				
貸付額(円)	1,600,000	1,579,000	1,100,000	2,100,000	402,019,000				

### ① 貸付対象者の制限

借入申込者が殺到し、市町村社協窓口が混乱することを避けること、かつ必要な世帯に優先して貸付を行うために、本県では、当初、借入対象者を次の3つの条件のいずれかに該当する世帯とし、その他必要に応じて対応することとしました。

- ・東日本大震災被災地域に居住していた世帯
- ・東日本大震災により被害を受けた世帯(職場の休業等による減収)
- ・その他必要と認める世帯

### ② 借入への抵抗感

給付金と思い込んで相談に来所したため、説明を聞いて貸付制度と判明し、申込みをせずに帰宅する相談者もありました。

### ③ 金融機関の非常取扱いや義援金の活用

ゆうちょ銀行等の口座保有者に対し、10万円までの現金の引き出しを可能とする災害時の取り扱いや、日本財団義援金配分を利用して、一時的な資金の確保をする被災者もありました。

### ④ 被災社協仮事務所の開設関係

本県では、通信手段がなく、また移動するための車の燃料が不足する中、県社協と被災地社協間が遠く、被災地が沿岸ほぼすべてと広域であること、相談受付する市町村社協の実施体制、相談に来る住民などの移動手段がないことなどを考慮し、市町村社協ごとに準備が整い次第、順次相談受付を開始しました。

その結果、社協本部が流失した市町村社協では、市街地から離れた山間地に仮事務所を開設したところ、住民が遠い仮事務所に相談に行きにくい地域も散見されました。これは、避難所で日中不在となる被災者を考慮し夜間も資金の説明を行ったり、相談を受けることで解決するようにしました。

## ③ 特例貸付の運用上の課題について

### ア 資金の交付方法について

貸付開始当初は、申込み受付後、4営業日での資金交付を可能にする事務処理を行いました。

しかし、貸付金は現金による交付としたため、沿岸南部の陸前高田市、大船渡市、釜石市、大槌町の4市町村では3月下旬から多くの借入れが集中し、同日に複数個所での資金交付が困難になりました。このため、火曜日・木曜日は、大船渡市、陸前高田市。水曜日・金曜日は、釜石市、大槌町というように資金交付日を変えることで対応しました。

さらに、職員が現金を搬送するリスクを回避するため、4月5日以降は、警備会社に現金輸送を依頼し交付場所で県社協職員が受け取って、資金を交付する方法をとりました。

なお、沿岸南部4市町村を除く他の沿岸市町村では、市町村社協の口座に貸付金を送金し、市町村社協が現金化し交付した他、市内の金融機関が再開するまで近隣の市町村社協へ貸付金を送金して引き出して交付する対応も取りました。

近隣の市町村社協に送金した際、連絡が不十分で交付予定の貸付金の受け取りができずに、予定通りに貸付金交付を行うことができなかったこともあるなど、大規模災害時の連絡体制に課題も生じた事例もありました。

### イ 被災者からの苦情について

避難所での資金交付時のプライバシー保護

- 個人のプライバシーの保護ができない。

避難所等で資金を交付する場合、多くの避難者の

前で資金交付するなど、プライバシーの確保に困難がありました。

#### ●貸付不承認の連絡

発災当初、電話等の通信手段がなかったため、不承認となった申込者へ連絡が取れず、資金交付日に不承認となった申請者が来所し、トラブルになることがありました。

## (2) 生活復興支援資金の貸付状況

生活復興支援資金は、東日本大震災の被災により失業や休業等で、日常生活全般に困難を抱えた方々に、生活の復興に向けて一時的に必要な資金を貸付け、世帯の自立を図ることを目的に平成23年7月19日から受付を開始しました。

資金種は、生活復興の際に必要な生活費を対象とした「一時生活支援費」、住宅の移転、家具什器、日常的な交通手段の自動車等の購入に必要な経費を対象とした「生活再建費」、住宅の補修等に必要な経費を対象とした「住宅補修費」の3種類です。

岩手県内は、日常的な移動手段に公共交通機関より自動車に頼る地域が多く津波等で自家用車を失った世帯に対して「生活再建費」の貸付を行い、自動車購入が可能となった世帯、「一時生活支援費」により被災後の一定期間の生活費を確保できた世帯など、被災後の自立に資する資金として役立てられました。

生活復興支援資金の貸付は、平成24年11月30日時点で63件、41,396,000円の実績となっています。

## (3) 被災者の生活再建に向けた今後の課題

緊急小口資金特例貸付の償還の特徴は、償還開始の通知と同時に、一括で償還する世帯が散見されたことです。被災前からの蓄えや、義援金で返済されたものと推測されます。

しかし、今後、生活の見通しがつきにくい世帯では、予定したとおりの償還が難しくなる可能性もあり、被災者の生活再建の状況は二極化することが予想されます。

緊急小口資金特例貸付、生活復興支援資金、いずれの貸付も、償還が困難となる世帯は、何らかの生活上の支援が必要となることも見込まれるため、今後、県社協は市町村社協や民生委員と連携を密にして、被災者の生活状況を把握し適切な支援を行う必要があるものと考えています。

継続的な支援で自力再建に寄り添ってゆくことが、ますます求められると考えています。

### 【生活復興支援資金貸付実績】

#### ①一時生活支援費

	平成23年								
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
貸付件数(件)	1	4	2	4	3	6	4	2	0
貸付額(円)	762,000	2,462,000	642,000	2,205,000	1,590,000	3,150,000	3,140,000	1,800,000	0

#### ②生活再建費

	平成23年								
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
貸付件数(件)	2	1	3	1	3	5	1	3	4
貸付額(円)	1,567,000	650,000	2,100,000	800,000	1,810,000	1,285,000	440,000	2,400,000	1,946,000

#### ③住宅補修費

	平成23年								
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
貸付件数(件)	0	2	1	0	0	0	0	0	0
貸付額(円)	0	3,260,000	130,000	0	0	0	0	0	0

#### ④復興支援資金合計 (①+②+③)

	平成23年								
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
貸付件数(件)	3	7	6	5	6	11	5	5	4
貸付額(円)	2,329,000	6,372,000	2,872,000	3,005,000	3,400,000	4,435,000	3,580,000	4,200,000	1,946,000

※貸付件数は貸付決定ベース、貸付額は送金実績ベース。

釜石市社会福祉協議会  
主任 八幡 亘



当会では震災発生から1週間ほどで相談窓口を設置しました。情報発信ができない状況下や寸断された交通状況でどれだけの人が相談に来るのか、何よりも被災者の気持ちをくみ取っていけるのか、不安ばかりでした。

窓口設置から数日すると徐々に相談者が増え、多い時は一日に30件ほどの貸付が行われました。通常は時間をかけて、相談者の性格や今後の生活設計などを把握しながら行いますが、今回はそのような対応をしていたら到底追いつきません。そこで、少しでも事務的な対応にならないように心がけたことは、手続きが終了した際に一言でも声掛けをすることです。「一緒に乗り越えましょう」「お互いに頑張りましょう」等、気持ちを共有できる言葉を選んで声掛けをしました。私も自宅が被災し、家族としばらく会えない時間を過ごしたことで、少しは被災者の気持ちがわかっていたつもりでした。

震災を経験したことで、改めて相談を受ける側の「包容力」みたいなものを考えさせられました。当会に来て頂いたことで、少しでも不安な気持ちが和らぎ「相談して良かった」と思われる社協となるよう、これからも心掛けたいと思います。

大船渡市社会福祉協議会  
主事 平山 位子



震災直後から、いずれ被災者向けの資金の貸付業務が始まることは予想していましたが、実際、受付を始めると毎日たくさんの方が相談窓口においでになりました。とにかく人数をさばくことが最優先で、皆さんの話にじっくりと耳を傾けて差し上げられないことが申し訳なく、残念でした。しかし、それでも同じ被災地の人間同士、相通ずるものが多く、かえって私のほうが「体に気をつけて」「頑張って」と励ましの言葉をかけていただき、それは困難な状況を乗り切っていく大きな力となりました。

また、県社協の方々や後方支援の方々を始め、たくさんの方々からの支えはとても頼もしく心強いものでした。本当に感謝しています。

あれだけの大災害でしたから、復興にはまだ時間が必要と思われます。被災した方々が1日も早く元の生活を取り戻し、街が活気を取り戻すまで、社協職員として自分がお手伝いできることをこれからも続けて行きたいですし、そうしなければならないと思っています。

平成 24 年								合計①
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	
1	1	0	2	0	0	0	0	30
1,056,000	900,000	0	702,000	0	0	0	0	18,409,000

平成 24 年								合計②
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	
1	3	0	0	0	0	1	0	28
99,000	2,400,000	0	0	0	0	0	0	15,497,000

平成 24 年								合計③
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	
1	0	0	0	0	0	0	1	5
2,100,000	0	0	0	0	0	0	2,000,000	7,490,000

平成 24								合計③
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	
3	4	0	2	0	0	1	1	63
3,255,000	3,300,000	0	702,000	0	0	0	2,000,000	41,396,000